

東日本 **APM** ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第434号 2007. 12/3

社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
 URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324
 発行人 高橋 廣

目	次
前期技能検定合格発表…………… 1	外国人研修生受入制度について…………… 4
受賞おめでとう…………… 2	事務局レポート…………… 5
K2007視察の印象(四季)…………… 3	支部会開催等…………… 6

**おめでとうございます 前期技能検定合格発表
 プラスチック成形技能士が誕生しました**

平成19年度前期技能検定プラスチック成形職種「射出成形作業」の合格者が10月10日(水)他の職種とともに全国一斉に発表されました。

ご承知の通り当工業協会では、毎年東京都から技能検定実技試験に関し委託を受け実施しています。今年度も7月28日(土)に会場準備・検定用金型の事前確認を行い、翌29日から8月15日(水)の試験会場後片付け・製品採点まで連続19日間の強行軍でしたが、特に大きな事故・怪我無く無事終了いたしました。工業協会経由で申請された合格者は以下の通りです。

今年度は1・2級合わせて194名の受検申請があり、東京都の技能士合格率は1級29.2%（前年度実績46.1%）2級48.8%（前年度実績49.6%）で、前年度に比べ1級の合格率がやや低下致しました。

技能士資格を取得された皆様は、今後とも益々研鑽を積まれ、企業業績向上の担い手として作業の無駄・コストの低減等に貢献されるようお願い致します。又残念ながら今回不合格となってしまった方は、来年度に向け一層の技能修得を図られると共に事前説明会・事前講習会等の活用により見事合格されることを期待します。

平成19年度 前期技能検定「プラスチック成形職種」合格者名

(工業協会申請者のみ)

射出成形作業 1級技能士 (18名)

氏名	勤務先
小野 篤成	山下電気株式会社
久保木 哲	吉田プラ工業株式会社

(但し都職能直接申請合格者が外に2名あり)

氏名	勤務先
遠藤 昌克	株式会社佐一プラスチック
中島 洋治	ナブラックス株式会社

氏名	勤務先	氏名	勤務先
赤石 博幸	住友化学株式会社	飯田 誠	株式会社 正電社
飯田 幸司	鈴野化成株式会社	岩崎 正勝	一松硝子株式会社
川外 直宣	豊合成樹脂株式会社	山川 展弘	ヤマト・インダストリー株式会社
笹田 康宏	かねひろ株式会社	熊崎 真一	東興業株式会社
井上 貴夫	株式会社 甲陵樹脂	横尾 敏行	株式会社 協和
柳澤 茂	セイコープレジジョン株式会社	吉田 正	ヤマト・インダストリー株式会社

ブロー成形作業1級技能士(1名)

氏名	勤務先
佐川 宏文	株式会社 日本製鋼所

射出成形作業2級技能士(63名)

(但し都職能直接申請合格者が外に11名あり)

氏名	勤務先	氏名	勤務先
武井 貞	山下電気株式会社	有泉 幸一	株式会社 川島工業所
諫山 憲二	積水化学東京工場株式会社	天池 俊介	株式会社 川島工業所
南須原 正貴	株式会社 サンパーツ	齋藤 学	株式会社 ミクニ
高桑 輝行	株式会社 YPK	平川 文博	株式会社 ミクニ
鈴木 廣興	株式会社 サン精密化工研究所	出戸 勝美	不二プラスチック株式会社
戸張 慶一	株式会社 サン精密化工研究所	植竹 立	不二プラスチック株式会社
柳澤 徹	株式会社 エンプラス	木村 和仁	株式会社フジクラ
田中 晴久	株式会社 エンプラス	影山 拓郎	日本モレックス株式会社
伊部 浩章	株式会社 エンプラス	中村 和人	昭和電器株式会社
広田 正則	株式会社 エンプラス	小野 貴博	山下電気株式会社
宮崎 英夫	朝霞積水工業株式会社	諏訪 泰弘	山下電気株式会社
末川 利光	新興産業株式会社	金子 智	山下電気株式会社
松下 諭	株式会社 サトーゴーセー	榊 陽一	山下電気株式会社
藤岡 義丈	株式会社 日本製鋼所	郭 宝輝	山下電気株式会社
内野 卓哉	株式会社 日ビ	一ノ瀬 良太	山下電気株式会社
松原 根永	有限会社 輝化成	鈴木 正利	株式会社 メックモールド
濱野 直樹	富士フィルムフットマニファクチャリング株式会社	酒井 朝史	相模原部品工業株式会社
清水 元	モールドフロッジャパン株式会社	一杉 昌紀	株式会社 プラテック
小暮 孝一	ミュキ精工株式会社	佐久間 靖郎	東京第一合成株式会社
関川 修司	工藤プラスチック工業株式会社	本間 一孝	株式会社 メックモールド
関 雄太	吉田プラ工業株式会社	巴 新一郎	株式会社 エコ
西沢 拓也	吉田プラ工業株式会社	小林 剛	レック株式会社
岩城 貴大	吉田プラ工業株式会社	青山 裕	宝栄工業株式会社
張 明	吉田プラ工業株式会社	寺沼 勝真	森六プレジジョン株式会社
齋藤 龍雄	株式会社 金子製作所	石原 幸彦	河村化工株式会社
増田 勲	住友化学株式会社	奥田 光弘	ヤマト・インダストリー株式会社

受賞おめでとうございます

平成19年10月31日に下記の表彰式が行われました。

○厚生労働大臣表彰(技能検定関係)

功労者 井ノ口由記 様

○中央職業能力開発協会会長感謝状(技能検定関係)

功労者 中村 正昭 様

K2007視察の印象 (四季)



K見本市は、3年に1回ドイツのデュッセルドルフで開催される世界最大規模のプラスチック見本市である。K2007は、10月24日から同月31日までの8日間にわたって開催された。展示された製品は材料および助剤、成形機および周辺機器、半製品、技術部品および強化プラスチックなど広い範囲に及んでいた。

同見本市を視察する機会があったので、一昨年日本で開催されたIPF2005と比較しながら、概況や印象について述べる。

出展会社数は3,130社であり過去最多の出展であった。一方、IPF2005の出展会社数は911社であったので3.4倍であり、いかに大きな規模か分かるであろう。また、アジア主要国からの出展社数でみると、日本27社、中国183社（香港29社を含む）、台湾132社、韓国74社であり、中国、台湾からの出展が圧倒的に多かった。K2007でみる限り、日本の存在感はなく、影が薄いという印象であるのは大変残念であった。わが国がアジアにおける「プラスチック技術のまほろば」として存在感を示すには、同見本市への対応は産業界としても、国としても検討すべき課題であると感じられた。

射出成形技術の点では、IPF2005では携帯電話、パソコン、デジカメ、LCDなどの部品を対象にした薄肉ハイサイクル成形技術に関する出展が比較的多かったが、K2007では、自動車、医療機器、食品容器などを対象とした成形技術の展示が多かった。展示内容では、提案型の成形実演が多く見受けられた。

いくつかの成形実演例を紹介する。

エンゲル社では、射出成形と押出成形を組み合わせたエクスジェクション (Exjection) の成形実演をしていた。また、自動車ドアトリムを、Dolphinプロセスと呼ばれる方法で、PBT成形後にエラストマーをミューセル (MuCell) で微細発泡層を形成させ、ソフトタッチな製品を同時成形する実演を行っていた。

バッテンフェルド社では、PAの水アシスト成形法により、自動車のシート用リクライニング・アジャスト・ハンドルを成形していた。

クラウスマッフアイ社では、スピンフォームという方法で自動車ドアトリムを、PC/ABSを成形後にポリウレタン発泡を同時成形する成形実演を行っていた。

ボーイ社では、射出成形機の金型取り付け部を局所クリーンブースにし、医療機部品を4個取りで成形し、イオン処理後、スプル除去、検査、袋詰めなどを同工程で成形する実演を行っていた。

材料関係では、IPF2005では材料メーカーの出展はほとんどなかったが、K2007では、毎回のことではあるが材料メーカーの展示が多かった。この中から、いくつかのトピックスを紹介する。

バイエルマテリアルサイエンス社では、PCとシリコン樹脂を用いた製品で、自動車の自動開閉する透明ラメラーフのコンセプト、黄色透明PCの外装とアルミフレームのコンセプトカー「eXaxis」の展示、EL(Electroluminescent)をPCフィルムに積層し、かつ熱加工できるフィルム「LYTTRON」などの展示があった。

デュボン社では、プラスチックの表面にナノ粒子の金属をめっき（方法は開示されていない）することで、強度・剛性を大幅に向上させるメタヒューズ (MetaFuse) と呼ばれる工法を紹介されていた。

以上、展示内容の一端を紹介した。全体を通じて、材料、配合剤、成形機、金型、付属機器などに関係する全メーカーが積極的な展示を行い、プラスチック産業を発展させようとする意欲を感じられたことが印象的であった。 (案山子)

外国人研修生受入制度について

JPO研修会報告

我が国が抱える重要な課題の一つに、「少子・高齢化」問題がある。

国内労働力人口が減っていく中、最近では外国人を抜きにして、生産活動を維持していくことは出来ない状況になっているようだ。

10月24日(水)東プラ年金基金会館において、日本金型工業会東部支部青年部会・天青会との合同勉強会を開催しました。当日は、永年外国人研修生受入の業務に携わってこられた関東通信事業協同組合・代表理事の平田明彦様を講師にお招きし、基調講演を戴きました。

以下は要約です。



外国人研修生受入は30年前から行われてきた。当初、特定の業種に限られていたため、大手企業が進出していた現地企業の従業員を日本へ呼び、生産に必要なスキルを学ばせていただけに過ぎなかった。本格的にこの制度が活用されるようになったのは、バブルの時期以降であり、平成2年当時も人材不足を補うためであった。またスタート時において規制や条件が厳しく、許可されたのは62職種114作業でしかなく、母国でその作業に携わっている労働者のみ日本で教育することが出来た。それに該当しない場合には一年間しか受け入れることが出来なかった。

標記制度の平成18年度の実績を見ると、年間で92,000人の外国人研修生が日本に来日した。国籍別では1位＝中国で、2位以下はベトナム・インドネシア・フィリピンの順位になっている。受入れ人数の国別シェアは、約7割近くを中国人が占め、圧倒的に多いとのことである。

業種別に見ると、1位は繊維・衣服関係、2位

は機械・金属関係、3位は食料品製造関係、4位は農業関係になっている。都道府県別では、1位が岐阜県、2位が愛知県、茨城県、広島県と続く。また受入れ企業の半数以上が従業員数19名以下の中小零細企業であるとのこと。



この制度は、研修生として1年、技能実習生として2年の合計3年間しか日本に在ることが出来ず、仮にその人材が優れていて、会社側が有能な戦力としてもっと長く残って欲しいニーズがあっても、現状では延長は出来ない。但し、今後についてはこの制度の見直しもあるとのことであった。



以上、基本的な流れだけを中心に勉強したが、関東通信事業協同組合様の設立当時に経験された様々な苦労話なども併せてお聞かせ頂いた。この制度のメリット・デメリットなど問題点もあると思われるが、将来に亘って利用のニーズが見込まれ、今後の課題としてさらに勉強を深めたい、との思いを大半のJPOメンバーが抱きました。

(濱野)

事務局レポート

■第287回理事会議事録

1. 日時 平成19年11月21日(水)
14時～15時
2. 場所 東日本プラスチック工業厚生年金
基金会館 会議室
東京都台東区柳橋2-21-8

3. 出席者

齋藤 森作	曾我部 上	佐山 敏夫
大野 泰昭	鈴木 幸雄	大井 英一
内藤 隆夫	白石 恵一	伊東 勢三
工藤 郁雄	犬飼 進平	大川 哲郎
後藤 暢夫	飯高 一郎	森 省三
肥後 武重	腰越 稔	園田 良輔
櫻山 徹	武田 久徳	飯塚 義彰
高橋 廣	古澤 正弘 (監事)	

4. 会長挨拶

今年サブプライム問題、原油の高騰、株安さらに円高等良い材料がなかった一年であった。中小公庫の景況観測によると2期振りにマイナスになり、先行き慎重な見方が支配的。製造業の業種では非鉄金属、鉄鋼が好調を維持している反面、電子部品、デバイス、プラスチック製品は良くないという内容だった。

樹脂価格は、汎用は落ち着いているがエンブレは値上げが打ち出されている。

当社の10月決算は、なんとか増収増益になったが厳しい状況には変わらない。産廃費用は漸減傾向。ランナーや不良品を自社で粉砕しておりその量は135tであった。年間使用樹脂の10%にあたる。回収業者に買取ってもらっており雑収入として計上、その額は漸増している。今年も雪の季節がきたがインフルエンザが流行っておりくれぐれも用心していただくよう述べ挨拶とした。

5. 議事録署名人

議長は、定款第31条2項により、伊東勢三理事、鈴木幸雄理事を議事録署名人に指名し了承された。

6. 議 事

議題1. 経過報告

(1) 役員会等の開催

9月12日 第286回理事会 東プラ年金会館

(2) 部会・委員会の開催

① 技能検定運営委員会

10月1～11日 後期検定受付

東日本工業協会

10月19日 前期検定反省会・慰労会

板橋技術専門校

② 能力開発推進委員会

9月21, 22日 講師・指導員等研修会

スター精機出雲工場

10月19日 推進委員会 板橋技術専門校

10月20, 21日 成形技術講座①、②

11月10, 11日 成形技術講座③、④

25名が受講 板橋技術専門校

③ 経営改善強化部会

10月30日 役員会

東日本工業協会

④ 青年経営研究会 (JPO)

10月24日 勉強会 東プラ厚生年金会館

⑤ 工業用品部会

11月6日 工場見学会 (株協和高崎第一工場)

⑥ APM会

10月3日 第145回例会南総CC

⑦ 人材確保事業委員会

9月12日 第2回委員会 東プラ年金会館

11月6日 工場見学会 (株協和高崎第一工場)

(3) 支部会等の開催

9月26日 都南支部会 蒲田「ア・ペア」

9月27日 埼玉支部会 浦和「満寿家」

9月28日 西南支部会 武蔵小山「井門」

10月22日 品川支部会 品川プランス

11月14日 都南支部会 蒲田「利久」

11月19日 武蔵野支部会 なだ万アブローズ

(4) 全日本プラ連合会

11月5日 第154回理事会 (TV会議)

各地区工業協会

11月14日 西日本、中部日本の各創立50周年
式典 各地区にて開催

11月16日 プラスチック検定推進協議会

Hラフォーレ

議題2. 会員の入会・退会承認の件

(1) 入会の部

賛助会員 1社

- ① 会社名 AIGスター生命保険㈱
所在地 東京都墨田区太平4-1-3
業種 生命保険

力をお願いした。

- ⑤ 連合会第154回理事会(テレビ会議)が11月5日に開催された。

以上で予定された議事が終了し、議長は15時00分、理事会の閉会を宣した。

■支部会報告等

【品川支部会】

10月22日、品川プリンスホテルにて16名が参加し開催されました。大井支部長より開催の挨拶と支部会計報告があり、専務理事からは、アンケート調査結果、来年度中小企業税制における非上場株式の控除枠拡大の動き等の報告をおこなった。続いて、商工中金・調査部の藤野次長より「今後の景気見通し」と題して講演を戴きました。終了後、講師を交えてさらに情報交換を重ねました。

【APM会】

10月3日、第145回例会が南総カントリー倶楽部で開催された。当日は晴れ・曇りのゴルフ日和の下、5組17名が参加し優勝を競いました。今回のコースは初めての挑戦者が多く、特にインの最終4ホールで皆さん難渋されていました。接戦を制したのは佐山敏夫氏で、ネット73の優勝でした。

議題3. 平成20年新年賀詞交歓会開催の件

別紙配布資料4に沿って事務局から説明した。
今回新春講演会は中小公庫の柴山総合研究所長をお願いした。



その他報告事項

- ① 人材確保推進事業実施に伴う追加アンケート協力についてお願いした。
② 協同組合の肥後代表理事より、医療保険事業について100名の契約が成り、12月スタートが可能となったお礼と報告を行った。
③ ㈱サトーゴーセイが協会会員では3社目となる「中小企業のものづくり基盤技術・特定研究開発」認定を受けた。
④ 来年度の旧板橋技術専門校におけるプラスチック加工科の受講生募集について説明し協

お悔やみ申し上げます

社団法人東日本プラスチック製品工業協会
元専務理事 井手 勝也氏(享年86歳)
平成19年10月26日逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
平成20年 新年賀詞交歓会開催のご案内

❖日時 平成20年1月17日(木)

- 講演会 15時30分～16時40分
- 講師 中小企業金融公庫 総合研究所長 柴山 清彦 先生
- 演題 「今年の景気見通しについて」
- 貢献者表彰式 16時45分～17時00分
- 祝賀会 17時00分～18時30分

❖場所 上野精養軒 東京都台東区上野公園4-58 電話 03-3821-2181

❖会費 10,000円(お一人様)